

学校名	新座市立新開小学校
実施日	令和 5年 1月 16日

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、「どの子どももみんなの一分の一」として、一人一人の児童に最適な支援をする学校づくりに向け、教職員が一丸となって取り組んでいる。	A	校長のリーダーシップの下、一人一人の児童の発達や理解度、家庭環境が異なることを踏まえ、指導や支援に当たっている。担任だけでは対応が難しいケースでは管理職や学年、担任外の教職員と連携し、チーム一丸となり個に応じた指導や支援を行っている。また、民生委員や市の相談室、放課後デイサービス等の校外の関係機関と連携を図り、誰一人とりこぼさない取組をしている。	A	「どの子どももみんなの一分の一」の方針に沿った教職員。「チーム一丸」となった取組は評価できる。悩んでしまった教員については、学校全体で迅速に対応していただいたことにより、良い方向に向かっていくことを高く評価する。
2	学校は、授業をはじめとした様々な場面において、ICT機器を積極的に活用して指導している。	A	学校研究として、ICTを活用した学力向上について取り組んでいる。また、朝会や授業をオンラインで実施したり、健康観察やアンケート等をフォームで行ったりして授業以外の場面でも広く活用している。一方、児童によっては、家庭において学習以外の使用も見られ、ICT利用のモラルや健康上の問題について、学校と家庭が一体となって指導を行うことが課題である。	A	ICT機器を積極的に活用した授業の取組のほか、様々な学校経営活動に活用している様子が見られ、今年度飛躍的な進歩が見られたことを高く評価する。しかしながら、一部には家庭において学習以外の使用によるモラルに反する行為も見受けられるようなので、家庭の協力も得ながら適正利用に向けた指導を行っていただくよう要望する。
3	学校は、児童の自己指導能力の育成を目指して、予防的・積極的な生徒指導の機能を生かした学級経営や学習指導に努めている。	B	自己指導能力の育成を図るため、生徒指導部会で定期的に情報交換を行い、先を見通し、児童に自己決定の場を与え、自己存在感を育み、積極的な生徒指導の機能を生かした学級経営や学習指導に努めている。なお、自己指導能力に対する考え方については、教員間で共通理解を図る必要があることを認識している。	B	「自己指導能力に対する考え方」について、教員間における共通理解は大事なことであるので、引き続き、深める努力をお願いしたい。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は、校務分掌や主任制を適切に機能させ、組織的な運営・責任体制を整備するとともに、働き方改革に取り組んでいる。	B	分掌会議を定期的実施し、各校務分掌の主任が担当する教科・領域等について、積極的にリーダーシップを発揮できるよう促している。また、働き方改革については、校長が教職員から聞き取ったり、アンケートを行ったりして改善に努めている。紙媒体の配付物の削減や研修時の5校時授業の実施等が挙げられる。	A	定期的な分掌会議の実施により、理解が深まり、主任のリーダーシップも発揮しつつあるようだ。働き改革については、校長のリーダーシップの下、改善が進んでいると感じた。
5	学校は、学校経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて改善計画を考え、学校経営を行っている。	B	学校評価(年2回の自己評価と年1回の学校関係者評価)の結果から、現状及び課題を把握し、各分掌会議でその改善策を検討している。また、校長自ら率先して教職員から意見を吸い上げて案を示し、可能なことから実践している。	B	学校評価結果による教員、保護者、地域関係者の意見をきちんと整理し、次へつなげていただきたい。引き続き努力をお願いする。
6	学校は、事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	「危機管理マニュアル」は全教員に配付し、素早く対応できるよう職員室の目につく場所に保管し、安全確保の環境づくりに努めている。3学期には、不審者対応訓練を予定している。今後はJアラート対応訓練やマニュアル等の作成が必要であると考えている。	B	危機管理マニュアルの全教員への配布、提示のほか、機動力を持たせるべく、訓練実施機会を増やすことも一考願いたい。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、指導と評価の一体化を重視した授業を展開している。	A	学校研究として、児童が納得のいく評価を目指すため、単元の始めに児童と共に達成したい学習の目標づくりに取り組んでいる。低学年には難しい部分もあるが、学年相応の形でやっている。このことにより、教員は児童につけさせたい力をより意識して指導を行い、児童も目標をもって学習に取り組むことができるようになった。	A	児童とともに学習の目標を立て、目標に向かって学習を進めることは、児童の意欲も引き出すことができ、高い効果が得られるものと期待できる。
8	学校は、各教科の指導において「見方・考え方」を軸とした授業を展開し、資質・能力の三つの柱の育成に努めている。	B	このことについて、課題に考えている教員は多い。そこで、三つの柱の育成の実現のために、アクティブ・ラーニングに重点をおいた学校研究に取り組んでいる。「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善を実践し、児童に必要な力を育んでいる。	A	校内研究において全教員が意識して取り組んでいるとのことで、今後にも期待する。
9	学校は、学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	学習指導要領や県編成要領等を基に、本校の実態に合わせて年間指導計画を作成し、それに基づいて日々の授業を行っている。また、各学級の児童の実態を把握し、学年の教員や特別支援教育支援員と連携し、必要な児童には個別の支援プランを作成し、個に応じた支援に取り組んでいる。	A	必要な児童に個に応じた支援プランを作成し、取り組んでいることは「どの子もみんな一分の一」につながるものである。引き続き取組をお願いしたい。
10	学校は、カリキュラム・マネジメントを推進し、society5.0を自在に生きる力を身に付けた児童生徒の育成に努めている。	B	未来社会を生きる児童の育成のため、学校研究を通して、全教員がICTを活用した授業を展開している。また、PDCAサイクルを実践して指導と評価の一体化を図ったうえで、各教科と総合的な学習の時間を連動させたり、地域の人材を活用したりするなどして、SDGsの視点に立った学習に取り組み、カリキュラム・マネジメントの推進に努めている。	A	全職員のICT活用、PCDAサイクルの実践、総合的な学習の時間との連動や地域の人材活用など、効果的な取組を高く評価する。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつしたり、「です、ます」をつけるなど場に応じた言葉遣いを実践したりできるよう指導している。	B	あいさつ、言葉遣いについては、生徒指導部を中心に全教職員で指導している。また、PTAと共にあいさつ運動を行うなど、保護者とも連携した指導を行っている。少しずつ改善されてきているが、定着としては十分ではなく、学校と家庭、地域がさらに共通認識をもち、それぞれでできることを考える必要がある。	B	あいさつ、言葉遣いについては、まずは家庭での教育が基本であり、大事なことであるため、効果的な家庭教育が行われるよう、引き続き学校側が工夫し、発信していくことをお願いしたい。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合っ学校生活を送れるような環境を整備している。	B	月1回実施されている生活アンケートにより、いじめ等の早期発見に努めている。いじめやいじめを疑われるものについては、管理職や学年で連携しすぐに適切に対応している。また、児童の話をよく聴いたり、養護教諭や相談員等と情報交換を密に行ったり、道徳だよりの発行、掲示を行ったりして、未然に防ぐ努力をしている。	B	いじめについては、早期発見・早期対応が肝要であり、学校全体として対応していることを評価できるが、一部にICTによるいじめがあるようなので、学校家庭が連携し、取り組む必要がある。
13	学校は、教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	B	児童の規範意識の向上を図るため、生徒指導部を中心に率先垂範を心掛け、日々指導にあたっている。特に授業時間を守ることを、進んであいさつをすることは生徒指導部会で確認し、全教職員が意識して行っている。しかし、教員によっては管理職による指導を受ける者もいるので、その都度、振り返っていきたい。	B	時間を守る、あいさつをすることは基本中の基本であるが、「生徒指導部会で確認し、全教職員が意識して行う」ほど困難なことなのかと改めて感じた。また、一部には管理職から指導を受けている教職員がいることは、非常に残念なことである。改善・努力をお願いする。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	A	朝のはなまるタイムの時間帯に、学年ブロックごとに週に1回、縄跳び運動を行っている。また、定期的な体育朝会や体育委員による活動等、これまで以上に体力づくりに取り組んでおり、成果に表れつつある。これからも、さらに活性化させていきたい。	A	体力向上の取組は大切なことであり、とりわけなわとびは取り組みやすさもあり、効果的であると感じる。引き続きの取組をお願いしたい。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	A	家庭科や特別活動の授業等で食に関する学習を行うことはもちろん、給食に関しては月に一度の食育の日や和風献立月間を設けたり、産地を紹介する掲示を行ったりしている。また、校長がお話朝会や学校便り等で継続的に食に関する講話を行うなど、食育の充実を図っている。児童の食に関する意識は高まっているが、その一方で好き嫌いのある児童がいることも否定できず、今後の課題である。	A	健康な身体を作る上で大切な「食」について、授業や給食時、朝会、学校便り等様々な機会をとらえて発信している様子がうかがえる。引き続きの努力をお願いしたい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	A	年2回の保護者アンケートやPTA運営委員会において、保護者から寄せられた御意見や御質問、年4回の学校運営協議会における各運営協議会委員の皆様からの率直な御意見を全教職員で共有し、適宜学校運営に生かしている。また、地域から要望や御意見をいただいた時もすぐに対応し、改善できることは即時に取り組んでいる。	A	保護者や運営協議会から寄せられた意見を学校運営に反映させることで、よりよく、より豊かな学校に発展していくものと期待する。 また、地域からの苦情に迅速に対応されたことに、学校への信頼度アップにもつながるものと感じた。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	毎月発行している学校だよりをはじめとした各種たよりや週1回更新している学校ホームページによって、各教育活動の様子を積極的に情報公開している。児童(情報委員会)からも、子供の目線で、学校の情報をホームページ上で公開している。また、スクールメールを活用して、多くの情報をこまめに保護者や地域に提供している。	A	積極的な情報公開・伝達により保護者の学校に対する理解度も上がり、効果的であると思う。 ICT活用による児童(情報委員会)からの発信についても児童たちの能力の更なる進化につながっていくと感じた。
18	学校は、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進により、社会に開かれた教育課程の編成・実施を行っている。	B	今年度もコロナの影響はあったが、学校応援団コーディネーターの御尽力により、給食配膳補助やミシン実習、プランターの花植えなどの活動を実施できた。また、地域のボランティアの方々が講師を務め、児童に有益な体験や活動の機会を与えていただいた。今後は、助けていただくだけでなく、児童が地域でできることを地域と共に考えていきたい。	A	学校応援団の尽力に感謝するとともに、児童の地域での活躍に期待する。